



こだち News

目次

平成29年度 事業計画	2
平成28年度 臨床心理サー ビス事業報告	3
掲示板	4

巻頭言

こだち 11年目からのプレゼンス

九州大学大学院人間環境学研究院
増田 健太郎

こだちは創設して11年目を迎えます。九州大学に臨床心理分野の専門職大学院が設立された2004年度に、これまでの九州大学が培ってきた臨床心理の研究と実践をより社会に貢献するためにより柔軟に対応できる組織が必要であるという問題意識から、創設することになりました。「Qプロジェクト」を教員と修了生の有志の勉強会から立ち上げたことがそのスタートです。当初は、場所・経営・事務局・事業内容・カウンセラーはどうするのか、NPO法人かベンチャー企業かなど様々な問題を論議してきました。「九州大学」の名前をつけられるかどうか大きな問題でした。教員と修了生の情熱とネットワークの力で、2006年に現在の西新プラザに開設することができました。「こだち」の名前も「こころとそだち」と、樹のように伸びてほしいという願い、こだち事務局がある旧九大外国人教員宿舎のイメージからつけられたものです。名前も公募と投票で決められました。九大臨床心理学講座の院生・修了生・教員の創造的な協働性の産物だろうと思います。年1回の講演会と公開スーパービジョンで日本の臨床心理学をリードしてこられた先生方の講話やスーパービジョンを聞くことができ、研修会ではロールシャッハやアセスメントなど臨床心理士のスキルアップに貢献していると思います。市民に対しては、心理面接だけではなく、家庭学習支援もニーズは高く、派遣員が不足している状態です。

何とか設立することができましたが、NPO法人の手続きや会計管理、経営の問題など、難問山積でした。カウンセリングを基盤としながらも、研修会・講演会事業、家庭学習支援など、臨床心理士の専門職としてのスキルアップや市民のニーズに応えられる事業の拡大を図りました。事業を拡大したものの「多忙な事務局業務」と「赤字経営状況の改善」が創設以来の課題です。10年間、専務理事・相談室長として関わってきましたが、この2点はいつも悩ましい問題です。九大をはじめとする数々の助成金の応募、文科省や福岡市の共働事業の受託などで、何とか乗り越えてきました。

しかし、「こだち」のみならず、臨床心理学を取り巻く状況は大きく変化してきています。一つは国家資格である公認心理師の誕生です。こだちは臨床心理士が臨床心理面接や事務局活動を担ってきました。うつ病の増加・虐待や育児ストレスの増加・不登校児童生徒の増加・人間関係の希薄化と多様化など現在の社会状況は、臨床心理学的視点での支援が従前以上に求められる時代になってきています。社会のニーズに対応するために、こだちが、公認心理師とどのように協働していくのか、また、クリニックや他の相談機関とどう連携していくのか、「こだち」のことを社会にどう広報していくのかは、こだちの11年目からのプレゼンス（存在価値）の課題だと思います。

最後になりましたが、私は創設以来、専務理事・相談室長を10年間務めて参りましたが、2016年度をもって、退任することとなりました。会員の皆様をはじめ多くの皆様にご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

平成29年度の事務局

事務局の体制が次の通り変わります。

理事長：

黒木俊秀

顧問：

田嶋誠一

野島一彦

専務理事：

金子周平

心理臨床部長：

山口雄介

事務局員：

香野有咲

高橋大樹

牧山翔子

柳 裕哉

山室香理

準事務局員：

饒田紗世

(五十音順)

どうぞよろしく

お願いいたします。



平成29年度事業計画



当法人は「臨床心理サービス事業」「協働事業」「研究事業」「研修事業」の4つの枠組みで事業を展開しています。平成28年度の各事業計画をお知らせします。



臨床心理サービス事業

カウンセリングルーム「こだち」では、臨床心理士の資格をもつ相談員が、心理面接を担当しています。

家庭学習支援事業では、不登校や発達障がいを抱える児童生徒を主な対象として、主に臨床心理学を専攻している大学生・大学院生の学習支援員の派遣を行っています。家庭学習支援事業では「①家庭学習支援員の派遣」「②保護者相談」「③家庭学習支援員の資質向上（研修）」の3つを1セットとして

行っています。

思春期居場所支援事業（ここりーと）では、不登校児童生徒やひきこもりの青少年を対象に、水曜日と金曜日の13時～16時にこだちのプレイルームを使ってフリースペース活動を行っています。スタッフ数名とゲームや折り紙、おしゃべりをしたり、ゆったりとした時間を過ごしています。また活動前後にミーティングを行い関わり方などの話し合いをします。



協働事業

地域のニーズに応じて、カウンセラー・講師派遣事業を継続的に実施してきました。講師派遣に関しては好評のものも多く引き続き依頼が届いている機関も多くあります。

今年度も引き続き、大学生、社会人等を対象としたキャリア支援講義、ストレスケア講義の講師派遣を行っています。また、緊急の危機介入についても取り扱う機会がありました。



研修事業

平成29年度は、下記の研修会を企画しています。参加申込はこだちからのチラシやホームページにも掲載しておりますので、ご参照ください。

〇こだちロールシャッハ研修会

本年度で9回目となるロールシャッハ研修会です。スコアだけに終始しない、クライアントの内界を理解し味わっていくための一味違ったロールシャッハ研修会です。

〇ころ研ABC～基礎から学ぶロールシャッハ～

ロールシャッハを普段使う機会がない、しばらく使っていないという方に向けた研修会です。昨年度に初めて開催し、予定数を上回る多数のご参加をいただき、大変好評でした。6月17日（日）に予定しています。

〇WISC・WAIS研修会

本年度新たに企画した研修会です。木谷秀勝先生（山口大学）をお招きし、WISC・WAISについて実践的に学びます。8月11日（金・祝）に実施予定です。

〇セラピスト・フォーカシングワークショップ

臨床面接の場におけるセラピストの体験をフォーカシングを用いて味わう研修会です。11月25日（土）・26日（日）に開催予定です。

〇こだち教育領域研修会

臨床心理士およびスクールカウンセラーを対象とする研修会です。6月25日（日）に開催予定です。

〇事例で学ぶテストバッテリー

今年度は7月30日（日）・12月3日（日）に開催予定です。知能検査とロールシャッハ法を中心とした投映法でテストバッテリーを組んだ事例から、テストの読み解き方、活用の仕方について、高橋靖恵先生（京都大学）を講師にお招きして1つの事例を1日かけてじっくり学んでいきます。

〇こだち精神医学講座

精神医学に関する研修会を開催します。ワークショップ形式で開催予定です。

平成28年度事業報告

「臨床心理サービス事業」「協働事業」「研修事業」の各事業ごとに平成28年度の事業報告を行います。

◇臨床心理サービス事業

こだちでは臨床心理士の資格をもった相談員の心理面接が事業の大きな柱となっています。平成28年度は103件のインテーク面接を実施しました。平成27年度に比べ、持ち直した様相です。一方、平成27年度の総面接回数は1493回でした。これまでの傾向から、短期間で終結するケースや長いスパンで向き合うケースが増えてきたと考えられます。

相談内容は、子どもや保護者の方の相談（不登校、発達の相談、親子関係、友人関係等）や成人の相談（家族関係、対人面での悩み、会社の人間関係、うつ等）と、多岐に渡る相談内容があり、医療機関と連携しながら面接を実施しているものも多くあります。面接の中で必要に応じて検査の実施等も行っています。また、福岡市内や県内はもとより、県外からも来談いただいています。

家庭学習支援事業にも例年通り多くの申し込みをいただき、12件が実働しており、急激にニーズが高まってきております。平成28年度で7年目となったこだちゼミナールは、一般市民向けに実施しています。例年定員を超えた申し込みをいただいております。平成28年度も好評のうちに終了しました。思春期居場所支援事業（ここりーと）も九大の大学院生がスタッフとなり、安定した活動を行っています。

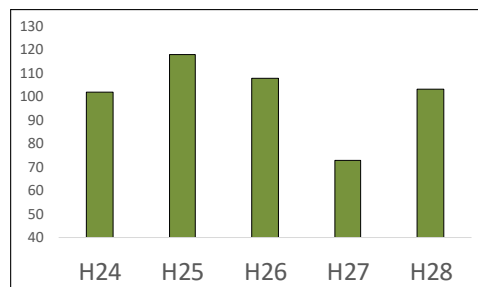


図1. インテーク面接件数の推移

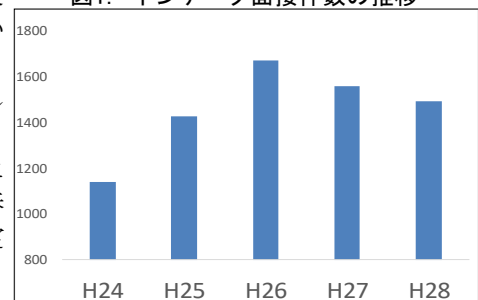


図2. 総面接回数の推移

◇協働事業

一般企業や行政・教育機関、病院等へ講師派遣を行い、平成28年度は6か所で研修会を行いました。好評をいただいております。多様なニーズにお応えしております。また、人間関係を苦手とする専門学生へのグループワークを15回シリーズで行いました。

臨床心理学の知見を活用した地域社会への貢献を設立理念としてあげていますが、会員のみなさまのご協力から、地域の多くの企業、病院、学校とのつながりが広がってきています。



◇研修事業

平成28年度は「こだちロールシャッハ研修会」「セラピスト・フォーカシング研修会」を継続型の研修会として実施しました。また「現場で使える臨床動作法2016」「こだち精神医学講座」等のワークショップ型の研修会も企画・実施しました。年度途中で企画立案いたしました「ころ研ABC」も好評を博しました。

今後とも様々な研修会を企画・実施していきたいと考えています。研修会に関するご感想やご意見をぜひお寄せください。

◇特別企画

第十回定時総会特別企画として、杉山登志郎先生（浜松医科大学）をお迎えして特別講演会を開催しました。また、設立十周年記念企画として北山修先生（九州大学名誉教授）をお迎えして公開事例検討会を開催しました。それぞれの会に多数のご参加をいただき、大変好評を博しました。

講座のお知らせ

—市民向け心理学講座— 「九大こだちゼミナール 2017」

九州大学の心理学を専門とする教授陣が、それぞれの専門分野から生活のための講義や実習を行います。日程は以下の通りです。研修会の詳細をお知りになりたい方は、当法人にお問い合わせください。



第1回	6/24（土）14:00～16:00	第5回	10/21（土）14:00～16:00
第2回	7/22（土）14:00～16:00	第6回	11/11（土）14:00～16:00
第3回	8/19（土）14:00～16:00	第7回	12/16（土）14:00～16:00
第4回	9/16（土）14:00～16:00	第8回	1/13（土）14:00～16:00



掲 示 板

こだちよりお知らせ

書籍紹介

こころの病を診るということ

私の伝えたい精神科診療の基本

青木省三（著）

医学書院

5月28日に招聘しご講演いただきました、青木省三先生の最新のご著書です。患者さんが診察室に入る前から始まり、お話しするとき、またはお話しできないとき、満遍なく行き渡った温かなまなざしで接する治療者の姿勢について、多彩なエピソードや症例とともに詳説されています。医学的な根拠に基づく診断・治療の視点と、人として患者さんやその環境を丁寧に見据える視点とが、切れ目なく連綿とつながっていることを、改めて考えるきっかけとなる本です。



新訂 自閉症

村田豊久（著）

日本評論社

本書は、1980年に出版され長く支持されてきたものを、その後の村田先生のご見聞をもとに、2016年に新訂として発表されたものです。今や自閉症についての情報が玉石混淆に溢れかえる時代となりましたが、専門家でさえも、その実態について捉えきれていないことに警鐘を鳴らしておられます。ウイングやラターらによる自閉症研究の功罪を網羅しながら、村田先生が実際に接してこられた自閉症の方々の出生からそれぞれの成長に寄り添い、成人となっても長く見つめ続けてこられたご経験とが織り交ぜられた、実践的な概説書です。



〇入会のご案内

こだちは今年で11年目を迎えます。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。NPO法人の会員となって私たちの活動を支援いただけると幸いです。会員になっていただける方はぜひこだちまでご連絡ください。なお、**会費は1年毎の更新制です。**よろしくお願いいたします。

会員：5,000円 学生会員：1,000円 賛助会員：5,000円（いずれも1口あたり）

〇ご支援のお願い

当NPO法人では会員以外の方からも、ご寄付をおまじししております。関心や興味をもたれた方はぜひご連絡ください

編集後記

昨年度1年間は、酷夏と厳冬の存在感たるや凄まじく、花やぐ春や風すずむ秋といううつろいの時を味わういとまがありませんでした。本年度は、さて、いざや。（柳）

交通のご案内



地下鉄でお越しの方

福岡市営地下鉄空港線西新駅下車後
7番出口より徒歩にて約10分



特定非営利活動法人 九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002

福岡市早良区西新2-16-23 九州大学西新プラザ内 産学交流棟

TEL 092-832-1345 FAX 092-832-1346
HP <http://kodachi.or.jp/>